ORD NEWS 2011 5 No.108
大阪府研究開発型企業振興会

CONTENT

ORD特別講演会 …… 1～2
第三回ORD知財セミナー …… 3
ORD国際取引セミナー …… 4
技術促進委員会「研修会」レポート …… 5～6
平成22年度ORD製品開発委員会第6回例会 …… 6～7
ビジネスノウハウてんこ盛り …… 8
ORDからのお知らせ …… 8

編集：企画広報部会　事務局：〒538-0044　大阪市鶴見区放出東1丁目10番25号（奥野製薬工業（株）企画開発部内）
TEL 06-6961-0886　FAX 06-6963-0740　E-mail info@ord.gr.jp　URL http://www.ord.gr.jp

## ご　挨　拶

このたびの東北関東大地震により、犠牲になられた方々に対して哀悼の意を表するとともに、未曽有の被害に遭われた皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

ORDでは幸いにして直接的に工場、事務所、従業員の安否等の大被害に会われた会員企業は居られませんでしたが、従業員、ご家族・ご親族等の方々の中ではやはり何らかの被災された方々も多数居られる事とご察いたします。

私たちは、会員に限らず被災された多数の方々、避難所で厳しい生活を余儀なくされている皆様に少しでもお役に立つことが出来れば考えており、一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

ORDでは、この事態に臆することなく社会の発展に寄与すべく活動を進めて行く事を決め、今こそ大阪が日本復興の足がかりにならなければならないと考えております。

つきましては今後も皆様の倍旧のご協力をお願いいたします。

大阪府研究開発型企業振興会（ORD）
代表幹事　奥野和義

## ORD特別講演会

# 住友金属の技術と経営

**ORD特別講演会要旨**

日　時　2011年2月14日(月)
講　演　3:30～5:00
懇親会　5:15～6:00
会　場　大阪国際会議場
（グランキューブ大阪）
講　師　住友金属工業株式会社
取締役社長　友野　宏氏
主　催　大阪府研究開発型企業振興会
（ORD）

講演者の友野住友金属工業社長（写真左）
講題と司会者、ORD事務局長（写真右）

2011年度初めてのORD全体行事として、2月14日に住友金属工業（株）の友野社長をお招きして、特別講演会を開きました。ORDの特別講演会は、会員の人脈が広いことに助けられ、2008年は三菱重工の大宮社長、2009年はソニー生命保険の安藤国威会長（元SONY社長）等など高名な人材に恵まれ、好評を博してきました。友野社長は若い時から奥野製薬工業の前社長やORD初代代表のサトーセンの元社長と懇意であったそうで、今回の講演もそのような縁があったので、ORDの要望を快く受入れてくれたそうです。

名刺交換をする友野住金社長

今回の講演者も超一流企業の社長なので講演会が成功するのは間違いなしでしたが、2011年2月早々、住友金属と新日鉄の合併問題が報道され、経済界のビッグニュースとなりました。そのような事は夢にも思わずORD企画広報部会はこの特別講演会を2010年から計画してきたので、佐藤事務局長は驚いて2月4日の企画広報部員に宛てたメールで「びっくりしましたね。住金社長が時の人になりました。今日になってから8人の参加申込がありました。現時点で定員一杯ですが、来週初めまで問合せがあるかも知れません。グランキューブへは、さらに少し椅子の数を増やすように手配しました」と大喜びでした。

**技術と経営－住友金属の事例－**

友野社長は京都大学工学部金属加工学科を卒業された技術系の社長らしく、技術を前面においた演題で、プロジェクターと住友金属の「経営報告書2010」をテキストにして、約一時間半にわたって住友金属の経営と、特に技術について詳しく説明されました。友野社長が住金社長に就任されたのは2003年で、その年、住金は400億円の赤字であったそうで、そのため住金が稼げるビジネスモデルを模索するのに、随分苦労されたそうです。友野社長の理念と方針を箇条書きにすると、

1. 早期の収益回復と持続的成長を目指す
2. 「差別化の加速」を進める
3. 海外の成長市場での展開を加速する
4. 技術で環境を守る
5. 長期の視点で信頼される会社を目指す

です。2009年の特別講演会で安藤元SONY社長は、長期景気低迷に陥っている日本の今後の戦い方は、

1. 日本ガラパゴス島を脱し、世界のマーケットで考える
2. 国際ブランドを創出し、国際基準で戦う
3. 欧米相手中心の競争から中・韓・印など、新興工業国相手の競争となる
4. ハイテク＝ロープライスの時代に対応

と述べておられました。両者の言葉は細かいところで異なりますが、これまでの日本のものづくりが、市場構造の変化や成長市場が流転している中で、迅速にそれに対応する必要があることを、厳しく感じておられるところは共通しています。日本を代表する産業界の賢人を招聘でき、企業経営に有益な考えを伝える講演会を催せたORDの活動は、社会に大いなる貢献をしています。

最後に住金とサッカーチームの鹿島アントラーズの理念と方針を比較したA4一枚の一覧表を全員に配って平易に面白く説明され、講演は終わりました。紙面に余裕がないのでその資料を掲載できないのが残念です。

**講演会のあとの懇親会**

懇親会は国際会議場の12階にある「グラントック」で開きました。多くの参加者が友野社長と名刺交換をして、そのあと企画広報・松浦部会長が開会のあいさつを述べ、友野社長からも挨拶を頂き、多くの参加者と和やかに懇親会が催されました。

懇親会で挨拶をする友野社長（右から二人目）。奥野代表幹事（右から三人目）

菊池清（記）／セン特殊光源（株）

# 第三回 ORD知財セミナー開催

## 『研究開発と特許情報の活用事例』

### （競合他社の技術分野と障害特許対策）

第三回ORD知財セミナーを12月2日（木）に奥野製薬工業（株）本社会議室にて開催致しました。本年の継続的テーマとして開催して参りました知財セミナーも3回目を開催し、次第に実務的な内容になってきたと思います。

今回は、『研究開発と特許情報の活用事例』として、藤本昇特許事務所の藤本昇弁理士、（株）ネットスの代表　田村勝宏氏のご両名にご講演頂きました。

近々の特許出願状況については、国内での出願件数が減少してきているとのことです。出願件数については、37～40万件／年が通例だそうですが、昨年は34万件／年と減少しているとのことです。これは、企業の経営状態悪化と特許を絞り込んで出願するようになったからだと推測されます。しかし、海外への特許出願が増加しているようで、特にインドへの出願が大幅に増加しているとのことでした。

各社が特許出願を自社に有効に利用するために、特許情報の調査、利用が今後益々重要になってきているとのお話でした。

特許権侵害とその予防対策のための特許情報として①開発時の予備調査資料②開発内容と障害特許調査資料③製品の製造、販売前の障害特許調査資料④製品販売後の障害特許追跡調査資料⑤障害特許とその対策、等の方策があるとのお話でした。

特許情報の調査依頼の件数は、年々増加しているとのことであります。特に、中国関連の特許情報調査の伸びが顕著だとのことです。

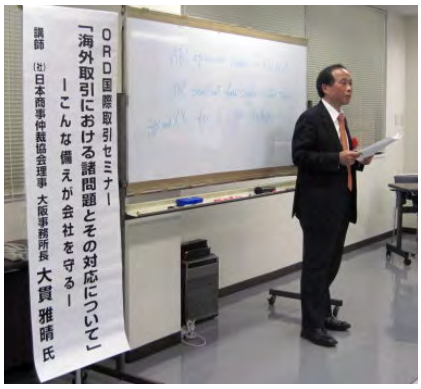
特許情報調査は、以前は自社が申請する特許について同様の特許が申請されているかどうか、特許が成立する可能性があるかどうかだけの単純な目的のために利用されていましたが、現在では、特許調査を経営、開発等様々な部署が他社の動きを探るために活用し始めているとのことであります。更に、競合メーカーが、研究開発している製品の方向付けを探るため、また、中心的な研究者は誰であるかまでも含めて、競合他社の動きを知るために方向についても知る上で重要な資料となっているとのことでした。

特許情報は、今後特許出願だけでなく、企業の経営上の判断材料として様々な利用が考えられるとのことであり、我々研究開発型企業にとっては、非常にためになるお話でした。

最後に、ご講演頂きました、藤本昇先生、田村勝宏様には心よりお礼申し上げます。紙面を借りまして深くお礼申し上げます。

森下喜郎（記）/新和商事（株）

# ORD 国際取引セミナー




去る3月24日（金）大阪道修町にある奥野製薬工業（株）の本社会議室をお借りして、ORD全体行事の一つ「国際取引セミナー」を開催いたしました。もうすぐ4月という時期にしてはまだまだ冬のような寒い一日でしたが、講師に（社）日本商事仲裁協会理事 大阪事務所長 大貫雅晴先生をお迎えして有意義なセミナーが開催できました。

3月11日に発生した東北・関東大震災の後を受け、一時はセミナー中止の意見もありましたが、大貫先生のご都合確認と参加申し込み者への聞き取り結果を判断材料として、最終的に予定通り開催させて頂くことが出来ました。参加を急遽取りやめる方もいましたが、年度末のお忙しい中33名もの参加者が集まりました。ありがとうございました。

セミナーの開始に先立ち司会者の声掛けで、参加者全員で被災地復興の祈りとともに震災の犠牲者に黙祷を捧げました。

被災された皆さまへ謹んでお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますよう、心よりお祈り申し上げます。

今年度ORDでは、知財セミナーを連続して開催してきましたが、それとは別に今回のセミナーは国際間で発生する商取引上の問題解決法＝仲裁について学ぶものでした。仲裁という係争解決手段は、「騙すより、騙される方がマシ」とする謙虚な日本社会とは違い、「騙される方が悪い」という国際社会（特に中国）では一般的に多用される制度で、裁判による法的解決とはまた別の強力な解決方法です。日本では裁判制度が充実して信頼度も高いのですが、そうではない異文化の世界とつきあう上では必須の手段ともいえます。40年余りに亘る豊富な実務経験をお持ちの大貫先生から、仲裁に関する重要ポイントについてお話を頂きました。

今回のセミナーで大貫先生がお話になった要点を挙げると、次の5点になります。

1. 契約書
   詳細に検討し曖昧さを残さないこと。中国語（英語）契約では、ことさら定義などを明確に。
2. 代金回収
   掛け売り条件の決済リスクを管理すること。相手の信用調査も重要。取り立てには時効が存在する。
3. 販売代理店
   白紙委任状提出は要注意。事前通知と正当事由を明記した解約規定も必要。
4. 技術ライセンス供与
   ロイヤリティーの計算根拠（純販売価額：NSP）の定義と控除科目の確認が重要
5. 紛争処理
   自動付託と裁判権排除効果のある仲裁条項が望ましい。ニューヨーク条約に世界で145ヶ国が加盟しているので国際的な強制力を持つ。

実例を紹介しながら以上5点を、大貫先生が詳しく熱い語り口で且つかみ砕いてお話になったので、90分間のセミナーはあっという間に過ぎまし

た。震災支援の為、省エネ（弱暖房）設定の会場でしたが、寒さを感じる暇もなくみなさん熱心にお話に耳を傾けていました。最後の質疑応答では、具体的に数多くの質問が出され、自社の抱えた問題を相談したいなどの意見もありました。

私たち日本人同士は同じ文化（土壌）を共有していますので、暗黙の了解を前提としています。しかしグローバル社会では、「お互いの認識は違う」ということを前提にして、もの事に対処する事が必要となります。もちろん全て外国流にするのではなく日本の良さは温存し、国内向けの顔（対応）と外国向けの顔を使い分けることが必要だ…とも、大貫先生はアドバイスされています。

（社）日本商事仲裁協会大阪事務所では毎週月曜日午後に、相談受付も可能とのことです。必要に応じて連絡・ご相談しては如何でしょうか？

URL: http://www.jcaa.or.jp

最後になりましたが、講師の大貫先生にはご多忙中、ORDセミナーで貴重な御講演を賜りましたこと心より感謝致します。この紙面をお借りして改めてお礼申し上げます。

（記）平子慶之：ニッタ（株）

【追記】会場に設置した震災義援箱にも参加者のみなさんから多くのお志を頂きました。この義援金はＯＲＤが責任を持って日本赤十字社を通じて被災地に送らせて頂ます。有り難うございました。

# 技術促進委員会「研修会」レポート

日時：2010.12.7.(火)
場所：JT生命誌研究館、忘年会

今年最後の研修会は、「高槻市ものづくり企業交流会」の皆さんとご一緒に高槻市内のJT生命誌研究館を見学した後、忘年会の運びとなりました。総勢19名にてJR高槻駅にて集合した後、徒歩にてJT生命誌研究館に向かいました。

JT生命誌研究館はウィキペディアによると「JTによって運営され、生命科学に関連した研究及び展示している企業博物館」なのですが、正直なところイメージがわかないままに訪問いたしました。最初に、館長の中村桂子様に30分程度、小講演を行ってもらいました。それを拝聴して思い至ったのですが、われわれ（少なくとも私は）はどうも学問を細分化してみているようです。中村館長のお話では「人間は自然界の一部であると考えたとき、生命の誕生や人類の進歩や自然環境といったものを全て

結び付けて考えなければならない。」とのことでした。その考えに則ってJT生命誌研究館の説明や展示物があるため、HPを見たりしている限りでは掴みどころのない印象を持っていたのでした。

中村館長の小講演の後、学術員の方に館内を案内していただきました。館内案内のマニュアルはなく、各学術員の方の裁量に任せてユニークな切り口にて案内していただきました。展示物そのものも大変貴重なものがあったのは言うまでもありませんが、印象深かったのは展示方法が館長の人柄が出ているのか非常にユニークでありました。理

解し易くというのはもちろんですが、女性や子供に受け入れられ易い優しい感じの展示物や工夫が随所に見受けられました。言葉で上手く説明できないので気になられる方は是非、ご訪問ください。4時30分閉館にもかかわらず、5時前まで特別に見学させていただき、その後の忘年会場へと移動いたしました。

忘年会はJR高槻駅とJT生命誌研究館の間にある芥川商店街のなかにある「割烹旅館亀屋」にて行いました。元々、高槻は江戸時代、西国街道に沿しているため参勤交代等でにぎわった宿場町です。亀屋さんもそういった流れで元々、伝統ある旅館だったのですが、交通の便が発達し高槻での宿泊が少なくなったために割烹旅館へと変遷したのでした。なべを囲んでの忘年会となったのですが、部屋の造りといい仲居さんの所作といい伝統を感じる大変すばらしい割烹旅館でありました。ふんだんに魚介類を用意したなべ料理がおいしく、お酒が進んだのは言うまでもありません。各テーブルにて話が弾む中、7時半に中締めとなり解散となりました。無事、本年も諸行事を終えることが出来ました。

最後に、お忙しい中、JT生命誌研究館　中村桂子館長様をはじめ、ご対応していただきました皆々様に感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。
また、高槻市ものづくり企業交流会の皆様におかれましてはORDへのご協力を感謝いたしますと共に、今後も益々のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

（記）旭テック（株）伊場田晶

# 「平成22年度ORD製品開発委員会第6回例会」開催報告

平成22年度「ORD製品開発委員会第6回例会」を平成23年2月16日（水）午後3時から「ユニケミカル株式会社殿」第203号室にて開催致しました。平成22年度最後の例会であり、当日は、平成22年度の回顧と新年度に向けての意見交換の後「製品開発委委員会」らしく新製品のプレゼンテーションを当該製造メーカー「笹野電線株式会社ササミック事業部」野田事業部長殿にご参加頂き製品説明及び一部の製品についてデモンストレーションを行いました。冒頭藤川委員長より平成22年度主要活動報

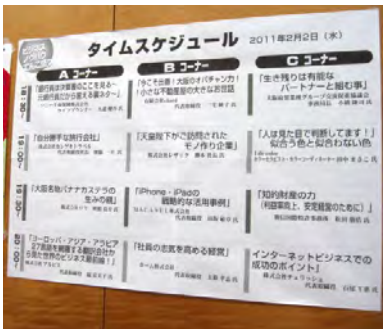
告があり、その中でもうひとつの委員会である「技術促進委員会」との交流が不十分であったこと、また新規加入企業候補2社の加入が未決定のまま新年度に移行せざるを得ない現状で力不足を反省していること、更に新年度役員改選時期を迎え新役員による当委員会の更なる活性化と改革を期待するとの意見表明がありました。引き続き、当日参加企業各社代表より平成22年度の回顧としてそれぞれ意見・コメントありましたが、総じて“業績が芳しくない”企業が多く、中には来年創立100周年を迎えるという「ネクスタ株式会社殿」の東北の企業買収や特異な技術力により40％以上の製品輸出という高実績を謳歌している「セン特源株式会社殿」更にはかかる経営環境下にあって、マレーシヤに新鋭工場を建設され世界に冠たるGMより高い評価を受けた「大阪真空化学株式会社殿」もあり、あの“リーマンショック”の影響で倒産という悲惨な話も殆どきくことのない「ORD」参加企業の“底力=逞しさ”を本例会でも実感しました。大阪府は中小企業中心の町であり、例えば東大阪市には他国の追従を許さない高度の技術を有する世界的に著名な企業が存在しており、ORD参加企業の中にもそういった特筆すべき企業は少なかならず存在していることは誠に心強いことであります。ORD発足当初に比べ参加企業が激しているようですが休会及び退会の真の理由・原因を改めて追求し、「ORD」への関心と参加へのメッリットについて事務局中心に意見整合した上で、特に休会している企業の復帰と新規加入企業の勧誘に全ORD挙げて尽力すべきではないかということを平成22年度最後の例会を通じて改めて感じました。本件は新年度に向けての当委員会の大きな課題でもあり別途真剣に討議すべきと考えております。出席各社の意見交換の後引き続きFBJ JAPAN株式会社の取引先である上記「笹野電線株式会社ササミック事業部」殿より同社のユニークな製品である①「LUMITITAN-NAG」という光触媒と銀イオンを組み合わせた特許申請中の抗菌・消臭・シックスハウス対策・防カビ用屋内用水性塗料②地球温暖化対策・$CO_2$削減に威力を発揮する業界最安値、10年間の保証付きの「省エネガラスコート」③脱臭用「光触媒玉子」④除菌・消臭スプレー「クリンちやんスプレー」、「スーパールミチタンスプレー」⑤冷却塔のスケール除去による省エネ・コスト削減のための「エレクトロライフ」等、主に「省エネ」「コスト削減」製品中心についてプロジェクター及び詳細資料及びサンプルにより説明されました。特に「省エネガラスコート」については独自のデモ装置により「塗装前」と「塗装後」の“温度差”について5分～20分程度の時間経過において5～7度程度下がっていることを目の前で検証確認、「省エネ」「コスト削減」効果のあることが立証された瞬間でした。

「笹野電線株式会社」は創業昭和8年という主に電気工事に関する電線・ケーブル等の販売からスタートした関西ベースの老舗商社で、その後代表取締役社長笹野順一氏の先見の明により環境分野に特化“ササミック事業部”を新設され「光触媒酸化チタン」を使用した製品の製造・販売に従事、特に同社の上記「LUMITITAN-NAG」は他社の追従を許さない戦略製品であり、これを利用した製品の品揃えも豊富で今後が大いに期待されているユニーク企業であります。「ORD製品開発委員会」は得意な企業の見学を兼ねた「日帰り研修会」を毎年実施しておりますが、これに加え「物作り」の観点から今後も「例会」を通じてユニークな企業の製品や商品の紹介（プレゼンテーション）の機会を提供し、会員各位のお役に立てるよう計画実施し努力したいと考えております。ご支援ご協力の程宜しくお願い致します。なを、最後になりましたがネクスタ株式会社岡崎社長様には早速製品にご関心お持ち頂き具体的対応の機会を提供いただきました事に対し本誌面をお借りし厚く御礼申し上げます。

藤川儀夫（記）/FBJ JAPAN

# ビジネスノウハウてんこ盛り

2月2日（水）大阪産業創造館にて「ビジネスノウハウてんこ盛り」が開催され、ORDも促進協の推薦でカタログ展示参加いたしました。



「ビジネスノウハウてんこ盛り」は、「（社）大阪産業経営協会」、「大阪市女性起業家情報交流会」、「なにわあきんど塾同友会」の大阪３団体の会員が講師となり全部で１２講座開かれ金融、貿易、社員教育，モノ作り、発展の秘密等様々な分野のお話、多種多様のパンフレット展示が行われました。当会以外にも促進協の小橋事務局長が講師として、又ORDの懇親会でよく利用させてもらう「ガゼボ」さんも「なにわあきんど塾同友会」のメンバーとしてカタログ展示されていました。

## 事務局よりお知らせ

ORD平成23年度総会の日程が決まりました。

**日　程**　平成 23 年 6 月 10 日　午後

**場　所**　大阪国際会議場（グランキューブ大阪）11F

**1 部　総会**

**2 部　講演**　講師　ORD 顧問　大阪府立大学経済学部教授　山本　浩二　氏

**懇　親　会**　大阪国際会議場 12F グラントック